

美術史学会美術館博物館委員会東西合同シンポジウム
「検証：国公立ミュージアム～官から民へのうねりの中で」

主催 美術史学会

日時 2006年4月22日(土) 10:30～17:00 受付は10:00より

会場 神戸市立博物館 講堂

定員 170人(先着順)

開催趣旨

会員の三分の一を美術館博物館所属の研究者が占める美術史学会では、「美術館博物館委員会」を設け、美術館博物館等をめぐる諸問題に取り組む一方、これまで二回のシンポジウムを開催し*、開かれた議論の場を提供してきました。3回目となる今回は、ふたたび会場を関西に移し、国公立美術館・博物館の成果と課題をテーマに開催したいと思います。官から民への大きなうねりの中で、それぞれの歴史を有する国公立の美術館・博物館等が生み出してきた成果を検証し、今日直面している課題について検討します。会員だけでなく一般市民にも広く聴講を呼びかけ、これからの美術館博物館が担うべき役割や方向性をともに模索していきたいと考えています。

***これまでのシンポジウム**

第1回シンポジウム(2004年)

テーマ「美術館・博物館はなぜ必要か？」

会場 兵庫県立美術館

第2回シンポジウム(2005年)

テーマ「美術館・博物館の新たな公共性を求めて～指定管理者制度・NPO・地域社会」

会場 東京都美術館

スケジュール(予定)

全体司会 根立研介 京都大学

10:30～ **開会あいさつ** 潮江宏三 西支部代表

10:40～ **開催趣旨説明** 後小路雅弘 九州大学

検証1. ミュージアムとは何であったか

11:00～ 佐々木亨 北海道大学

11:30～ 狩野博幸 京都国立博物館

12:00～13:00 **コメンテーター** 平井章一 兵庫県立美術館

質疑応答

検証2. ミュージアム経営のゆくえ

14:15～ 未定(芦屋市立美術博物館問題)

14:45～ 高井健司 大阪市教育委員

15:15～ 原田博二 長崎県歴史文化博物館

15:45～16:45 **コメンテーター** 泰井良 静岡県立美術館

質疑応答

16:45～17:00 **まとめ** 木下直之 東京大学